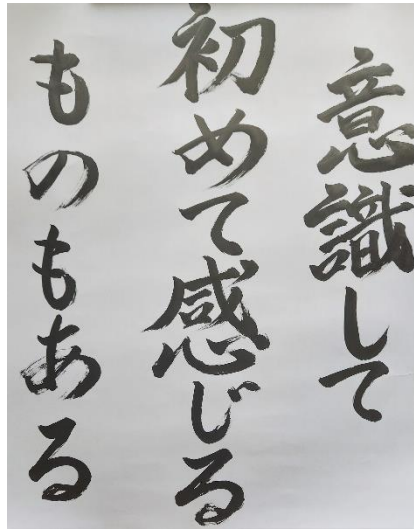


慶念寺々報

# つなぐがけ

## 慶念寺の掲示板 第二十六回



「意識して初めて感じるものもある」

秋に楽しみにしていることがあります。それは「彼岸花のつぼみ探し」子ども達がいなければ、決して知らなかった楽しみです。自然にしても、知識にしても、普段の何気ない光景にしても、意識しなければ感じていないものは沢山あります。

眠れない夜に、「カチツカチツ」と

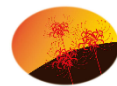


いう音が気になって仕方が無くなる時ってありませんか？時計の音って意識しだすと、もう耳から離れなくなりやすよね。彼岸花のつぼみも、意識して初めて見えてきた。時計の音も意識して初めて聴こえてきた。でも、それらは間違いなくともそこにあつたの



です。  
意識していなかったから気づかなかつただけ。意識をするだけで感じられる音。見えてくる光景って沢山あるんです。

意識ひとつで、嫌なものが嫌だと感じなくなり。気にも留めていなかったものが、彩りをもって私たちの日々を輝かせてくれる。そんなことってあると思います。逆もまたしかりですが。



「見えていないから、見えないから無い」のではないんです。ちよつと心を傾けるだけで見えてくるもの、広がる世界があります。合掌する時もそうです。「私が手を合わせた」と思い合掌をするのと、「阿弥陀様が、先だつていった方たちが仏さまとして私の手を『合わせてくれた』」と思い合掌するので、仏さまと私の距離が劇的に変わったように思えるのではないのでしょうか。

お参りする時、私「が」お参りしている。ではなく、私「を」お参りさせてくれている。そう意識するだけで、私を突き動かしてくれるはたらきを感じる事が出来るんだなあと、最近味わっています。いつも目にしてはいるはずの道に咲く花にだつて、意識しなければ目が向かないのが私です。これを機に、いつも目を向けないものに目を向けるきっかけになればと思います。合掌する時も、時々いいので「手を合わせた」ではなく「手を合わせてくれた」そう思えるようなお参りをしたいだけなら、こんなに嬉しいことはありません。

### 御本尊の修復が終わり 十一月にお迎えいたします

数か月前からお知らせしておりましたが、

いよいよ十一月に慶念寺の御本尊が変わります。



上の写真は、修復をお願いしている若林佛具製作所の仏師さんの手により、御本尊修復に協賛してくださった皆様のお名前を、住職がお一人ずつ書いた文書を胎内に収める前の写真です。もともとこの御本尊の中にあつた文書と共に、「慶念寺御本尊縁起」と題し、御本尊の中に納めさせていただきました。いつか、数百年後にこの文書が誰かの手によつて



開かれる時が来るかもしれない。その時に、私達が味わつた感動を得てもうらいたら嬉しいですね。そして、

左の写真が彩色まで完成した御本尊です。来月の法話会では、こちらの御本尊をお迎えする「入仏式」を兼ねて行います。

# 宗祖報恩講・開所記念法要 入仏式を行います!

宗祖報恩講とは、浄土真宗で最も大切にされている法要で、浄土真宗の宗祖である親鸞聖人の御命日を機縁として営む法要です。親鸞聖人の御命日は、一月十六日ですが、この日にかけて京都のご本山で報恩講が勤まるため、そちらにお参りできるように一般寺院では日をずらして行うのが通例です。また、慶念寺が開所したのが平成二八年の十一月ですので、例年慶念寺では十一月に宗祖報恩講と開所記念法要を併修しております。



それに加えて、今年は新しい御本尊をお迎えする入仏式も勤修いたします。

法要は、今までの御本尊と新しい御本尊を並べて行うこの時だけのお荘厳（おかげり）で行います。二躯の御本尊を並べてお参りするのには、この御法要の準備期間中だけになりますので、この時だけの慶念寺へ、お参りいただけますと幸いです。

また、この御法要に際し、千葉県我孫子市にある真宗寺の柏倉学法師をお招きしてご法話をいただきます。柏倉先生は、新型コロナウイルス感染症拡大前は毎年慶念寺にご法話に来てくださっていた先生で、非常にやわらかな語り口で、わかりやすく楽しく、そして何より有難いご法話をしてくださる先生です。是非お荘厳だけではなく、柏倉先生のお話も堪能していただければと思います。詳細は左記のとおりですので、ぜひぜひ万障お繰り合わせの上、お参りください。

服装や持ち物に決まりはありません。とくに参加費なども設けておりませんので、気軽にお参りいただければ幸いです。普段のご法事ではない特別な聲明や、茶話会もあります。ご法事とは違うお寺を是非体験してみてください。

## 宗祖報恩講・開所記念法要 入仏式

日時 十一月十九日(日)

十四時から

講師 柏倉学法師

服装や持ち物に決まりはありません。(お持ちの方はお念珠と式章をお持ち下さい)



## 御築地本願寺の宗祖報恩講に 奏楽員として出仕します

こちらも毎年恒例ですが、十一月十一日(土)から十六日(木)までお勤めをされる築地本願寺の宗祖報恩講に奏楽員(雅楽を演奏する僧侶)として住職が出仕をいたします。奏楽員出仕は当番制で、住職が出仕をするのは十三日から十五日の午後二時から

の法要です。特に十三日は「中速夜法要(ちゆうたいやほうよう)」と言って、五日間にわたる報恩講の折り返しとなる法要です。この法要の特徴は、雅楽が多く演奏されることで、演奏中に内陣の僧侶が行道を行います。この法要で住職は笙の主管(代表奏者)を勤めます。そして、十四日の法要では、太鼓を担当いたします。十五日の法要は助管ですが、この日は御門主が御出座なさるので、普段の法要では演奏されない曲が奏されます。



築地本願寺で、年に一度行われる大法要。数十名の僧侶が勤める法要は大迫力です。また、法要中は境内での行事や御堂布教など様々な催しがありますので、是非お参りいただければと思います。

しいのではないかと思います。こちらも、特に服装や持ち物に決まりはありません。ご予約が合いましたら是非、法要を体験してみてください。

